

長期戦略:テーマ 「国際化の推進」

Ⅱ.実施計画帳票

構想調書 1(6)⑥

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	担当部署 国際連携機構
-----------------------	---------------	---------------	----------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)		取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(6)-⑫ (SGU2-4-5)	(SGU2-4-5) 海外拠点の拡大	2014年度	2023年度	必要なし	不要
内容					
<p>【目的】</p> <p>関西学院大学の国際化の戦略的進展を目的として、スーパーグローバル大学創成支援(SGU)の計画に連携させ、既に拠点を設置したトロント大学、吉林大学に引き続き今後重要となる地域に新たな拠点を設置する。拠点の駐在員の主な役割は、以下のとおりとする。</p> <p>①関西学院大学から現地に留学中の学生・教員の活動支援</p> <p>②当該地域にある大学や国連および国際機関との連携の強化</p> <p>③海外からの留学生・研究者を多く獲得するための広報・リクルート活動</p> <p>④現地の教育研究事情に関する情報収集</p> <p>【内容】</p> <p>北米拠点(トロント大学)、中国北部拠点(吉林大学)に続く新たな拠点を中国南部拠点(蘇州大学)及びASEAN拠点(サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学)に設置する。</p> <p>○想定される機能・目的</p> <p>北米拠点(トロント):上述の①～④を目的とする。現状を維持した上で、職員のSDを兼ねた半年程度毎、計2名通年の派遣場所としても活用。</p> <p>中国北部拠点:上述の①～④を目的とする。北部エリアの拠点となる吉林大学に加え、南部エリアの拠点を蘇州大学に設置する。</p> <p>ASEAN拠点:上述の①～④を目的とするが、特に③と④を主目的とする。候補地としてはインドネシア・ジャカルタ等を予定。</p>					

■ 新中期計画(後期)からの移管

海外拠点の設置

トロント大学、吉林大学、蘇州大学の各大学内に拠点を設置し人員を派遣する。

人員派遣は、トロント大学は毎年半年2名、吉林大学・蘇州大学には隔年で半年1名とする。拠点設置により、現地留学中の学生・教員の活動支援、現地教育機関・国際機関との連携強化、現地留学生の獲得、現地研究者との連携強化、現地教育研究情報の獲得の成果が期待できる。なお、関学フェローについては、SGU2-4-4 海外での関学フェロー制度の活用に記載する。

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式 ※既に新中期で立てた指標(後期新中期帳票から転記)
指標1	海外拠点設置数	海外拠点として新たに設置された箇所数
指標2	海外拠点の活用度	本学が出張等により拠点を利用した回数、案件処理の数など。
指標3	海外拠点の業務目標と評価	専任職員派遣を予定している海外拠点には、海外拠点の業務目標を国際連携機構事務部と派遣者が設定し、その評価を行う。

目標1<指標1>海外拠点設置数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標					+2	
実績	+1	0	0	+1	0	0
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標						
実績	0					

目標2<指標2>海外拠点の活用度

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標						
実績	6	5	2	1	1	1
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標	2					
実績	0					

目標3<指標3>海外拠点の業務目標と評価

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
目標						
実績	1	1	—	—	—	—
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度以降	—
目標						
実績	—					

2. 実施計画:ロードマップ

		2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	
北米拠点 (トロント大学内)	策定段階	運用(職員を通年で計2名派遣)	運用(職員を通年で計2名派遣)	運用(職員を通年で計2名派遣)	運用(職員を通年で計2名派遣)	運用(職員を通年で計2名派遣)	
	2021 年 3 月 末段階	運用(職員を通年で計2名派遣)	運用(職員を通年で計2名派遣) 運用の改善策の検証	運用(職員を短期で1名派遣)	運用(職員を計2名派遣)	運用	
			2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階	運用(職員を通年で計2名派遣)	運用(職員を通年で計2名派遣)	運用(職員を通年で計2名派遣)	運用(職員を通年で計2名派遣)	運用(職員を通年で計2名派遣)	
	2021 年 3 月 末段階	運用	運用				
			2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階						
	2021 年 3 月 末段階						
		2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	
中国北部拠点 (吉林大学内)	策定段階	運用	運用(職員を半年1名派遣)	運用	運用(職員を半年1名派遣)、運用の改善策の検証	運用	
	2021 年 3 月 末段階	運用	運用	運用	運用	運用	
			2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階	運用(職員を半年1名派遣)、運用の改善策の検証	運用				
	2021 年 3 月 末段階	運用	運用	運用	運用	運用(職員を1名派遣)	
			2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階						
	2021 年 3 月 末段階						

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
中国南部拠点 (蘇州大学内を予定)	策定段階	設置の詳細に関する 検討、調整、設置	運用	運用(職員を半年1名派遣)	運用、運用の改善策の検証	運用(職員を半年1名派遣)、 運用の改善策の実施	
	2021年3月 末段階	設置の詳細に関する 検討、調整、設置	運用	運用	運用	運用(職員を1名派遣)	
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	運用(職員を半年1名派遣)、 運用の改善策の実施	運用(職員を半年1名派遣)、 運用の改善策の実施				
	2021年3月 末段階	運用	運用	運用	運用(職員を1名派遣)、 運用の改善策の実施	運用	
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階						
	2021年3月 末段階						
		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
ASEAN拠点 (インドネシアを予定)	策定段階	前半に設置候補地の検討、 後半に調整、設置、運用	運用	運用	運用(職員を通年で1名派遣)、 運用の改善策の検証	運用(職員を通年で1名派遣)	
	2021年3月 末段階	設置候補地の検討	設置候補地の検討・調整	設置候補地の検討・調整	設置(サティヤ・ワチャナ・キ リスト教大内)運用	運用	
			2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
	策定段階	運用(職員を通年で1名派遣)	運用(職員を通年で1名派遣)				
	2021年3月 末段階	運用	運用	運用	運用	運用	
			2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	—
	策定段階						
	2021年3月 末段階						

3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】						
非公開						
経費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
人員・人件費	2014年度承認	2015年度承認	2016年度承認	2017年度承認	2018年度承認	2019年度承認
非公開						
経費	2020年度承認	2021年度承認	2022年度	2023年度	2024年度以降	
非公開						

人員・人件費	2020年度 承認	2021年度 承認	2022年度	2023年度	2024年度以降
非公開					

4. 進捗状況・得られた成果

2016年度	<p>■海外拠点の数及び概要</p> <p>海外拠点への職員派遣は実現しなかった。これは人事課、国際連携機構の双方で人選・決定にいたらなかったため。なお、トロント拠点については、本学の国際プログラム運用のために頻繁に利用している。</p> <p>ASEAN 拠点については、費用対効果の検証を進めた(結果、2017年度にサティヤ・ワチャナ・キリスト教大学内での設置につながっている)。</p>
2017年度	<p>2017年8月に ASEAN 拠点を、サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学内に設置した。(なお、設置に係る費用は、サ大が負担。)なお、トロント拠点については、本学の国際プログラム運用のために利用している。</p>
2018年度	<p>海外拠点への職員派遣は実現していないが、サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学内に設置した拠点において国際ボランティアプログラムの学生が近隣地域住民との交流活動の拠点として利用している。</p>
2019年度	同上
2020年度	コロナ禍により活用なし

5. 今後の課題及び方向性

2018年度	<p>■拠点への人員配置を凍結</p> <p>■拠点および活用について見直しを行う</p>
2019年度	<p>■拠点への人員配置を凍結</p> <p>■戦略的パートナーシップ構想に着手</p>
2020年度	<p>■戦略的パートナーシップ構想を策定</p>

2021 年度	■学院としての戦略的活用の検討が望ましい(他大学は法人が管轄している例が多い)。
2022 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2014 年度	消耗品費、旅費、通信運搬費については、<保留>。当面は当初予算で対応してください。申請額(1稿)と当初予算との差額分は保留とします。
2015 年度	旅費、通信運搬費、賃借料、後期中期計画からの移管については、申請どおり計画を承認します。
2016 年度	—
2017 年度	—
2018 年度	—
2019 年度	—
2020 年度	—

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・海外拠点をインドネシアにも設置したが、活用できていない。	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止	・海外拠点の活用方策の再検討

【フェーズⅡ(2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	